



# はまなす季刊

医療法人はまなすHP ▶▶▶ <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人はまなす **篠路はまなすクリニック**

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号  
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人はまなす **はまなす医院**

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1  
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6623



## 観察力

理事長 工藤 岳秋

はまなす医院近くの茨戸川では季節に関わらずフナ釣りに興じる人たちがいます。ゴールデンウィーク前後が最も賑わいますが、真夏や初冬でもウキをじつと見つめる姿を時折目にします。

釣りは悠長な趣味だと評されることがあります。太公望が周の文王に声を掛けられ軍師として招かれた際、川で糸を垂れてひたすら静かに魚を待っていたという古代中国の逸話もあるように、とかくのんびりとしたイメージがあります。

しかし実際には意外と神経を使います。糸が太すぎて魚に見破られていないか、オモリの重さは適切か、エサが針から外れて無くなっていないか、と常に水面下の様子を想像しながら繰り返し仕掛けを確かめます。竿先のかすかな動きにも即座に気づける注意力が根気ともに必要とされます。

慢性疾患、特に腎不全とは長期にわたる付き合いになります。血液透析患者さんは曜日によって生活リズムがある程度定まっております。パターン化されている場合もあります。その中に見受けられる何気ない兆候から体調不良を素早く察知し治療に結びつけ、病状を悪化させないようにすることが医療者には求められます。

医療法人はまなすは創業21周年を迎えました。これまで以上に深く信頼していただけるよう、私たちは患者さんとともに忍耐強く疾患と向き合いながら、日々の細かな変化を見逃さない観察力を養っていきたいと思います。

## 特集

# 篠路はまなすクリニック 施設のご紹介

### 洗浄・中材滅菌室

石狩から篠路へ新規移転に伴い、手術室と洗浄・中材滅菌室も移転しました。外来での処置・手術の件数増加を想定し、機械洗浄機と大型の高圧蒸気滅菌器を導入することで、洗浄や滅菌業務の時間が短縮し以前よりも他業務に移行可能となりました。

### 手術室

手術室は、消化器の腹腔鏡手術にも対応可能な広さを確保し、コンセントや医療ガスパイピングを必要位置へ動かせ

る移動式にしました。

以前はシャント手術時に血管の状態がどのようになっているかは、X線透視室まで移動しての造影検査が必要でした。新施設にはCアーム装置を導入したことでX線造影検査・治療が可能になり、手術からバルーン拡張治療まで一度に行えるようになりました。また、最新の腹腔鏡システムが導入されたことに伴い、カメラ映像システムが整備され手術の録画・保存、詳細画像の表示などが可能になりました。

(青木玲香)



オートエレベーター

洗浄機



手術室



Cアーム



腹腔鏡システム

## 新人の

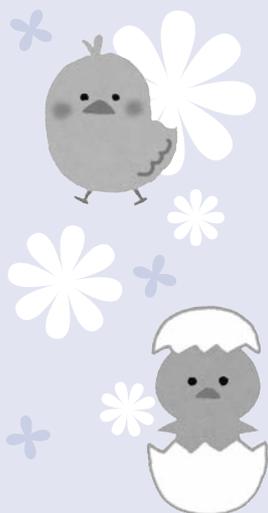
## 技士紹介



臨床工学士  
神山 亜美

平成26年4月より、臨床工学士として篠路はまなすクリニックに入職致しました、神山 亜美です。

3月に吉田学園医療歯科専門学校臨床工学科課程を卒業し、国家資格を無事取得し、今こうして勤めてから約2ヶ月が経ちました。まだ、知識が浅く、医療に携わる者としては日々学ぶことが沢山あります。ですが、いち早く臨床工学士として知識や技術を身に付け日々の業務に取り組みで参ります。また、患者様が安心して来院され、治療が受けることができるよう、院内のスタッフと連携を図りながら頑張りますので、よろしくお祈り致します。



# 篠路はまなすクリニック最新医療設備のご紹介

## CT装置



「Supria」(スプリア・日立メディコ社製)は16列CTとしてトップクラスの開口径(75cm)となっており、被検者の圧迫感が少なくなりました。また、先進技術により被爆低減効果とノイズ低減による高画質化の実現をみえています。更に胸部であれば7~8秒、胸腹部であれば、12~13秒の短時間撮影が可能となりました。



## X線透視装置



「CUREVISTA」(キュアビスタ・日立メディコ社)はフラットパネル(FPD)システムを採用し、従来の光電子増倍管(1.1)システムでのデメリットであった歪みや感度ムラがなくなり、最適な画像が提供できるようになりました。また、テーブルは床面から55cm~119cmの範囲で昇降できますので、車椅子やストレッチャーからの乗せ替えが容易に行えます。更に2ウェイアーム(前後左右移動可能)の採用により、被検者の移動を伴うことなく位置決めが行えるため、安心できる検査環境が提供できるようになりました。

## 一般撮影装置システム



ワイヤレスタイプのカセット型 FPD (AeroDR・コニカ社製)を採用。撮影したフィルムを専用の読み取り機に通すことなく画像検出できますので、優れた即時性が特徴です。また高いX線検出効率によりCRに比べ約半分のX線照射量でも高画質の診断画像を得られるため、被検者への被爆リスクを大幅に低減することができます。



(菅原次郎)



臨床工学技士  
平賀 知実

私は北海道ハイテクノロジー専門学校 臨床工学技士学科を卒業後、篠路はまなすクリニックに入職させていただきました。平賀 知実と申します。春から新しい環境で慣れない事も多い中、周りの方々のサポートもあり一医療人として励む事ができています。まだまだ未熟ですが、患者様一人一人と向き合い、皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



臨床工学技士  
谷 亜由美

4月に入職しました。臨床工学技士の谷 亜由美です。出身はラベンダー畑が有名な中富良野町です。趣味は4年前から始めたマラソンで、5キロからフルマラソンまで多くの大会に出場しています。北海道マラソンも2年連続で出場しており、今年も完走と自己ベスト更新を目標に練習中です。皆様のお役に立てるように頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。

# 祝賀会

5月9日、「篠路はまなすクリニック落成・はまなす医院創立21周年記念祝賀会」が京王プラザホテル札幌で行われました。  
 当日は、理事長による「透析患者の消化器手術」と題して記念講演がありました。参加者は熱心に聞き入っていました。



理事長の講演の司会をする  
中辻事務長



工藤立史副理事長挨拶



工藤春代理事へ感謝を込めて  
吉田師長より花束!



若い臨床工学技士達を見つめる会長



岳秋理事長及び  
立史副理事長の奥様へ感謝の花束!

祝賀会には、医師会、医療関係者、建設関係者の方々など約160名が参加し、沢山の祝辞、祝電を頂きました。

式典では、長期に及ぶ「篠路はまなすクリニック」の増築に貢献をされた「株式会社 石本建築事務所」様、「株式会社 藤井工務店」様に理事長より感謝状の贈呈がありました。



「幻想即興曲」を弾く工藤立史副理事長



「パパ、こんな曲も弾けるんだね」と近づき、「待つて〜」と理事長のお子さんが引き止めに行く

祝宴では、美味しいお酒、お料理、そして職員、副理事長によるピアノ演奏で会場はおおいに盛り上がりました。  
「はまなす」の歴史が偲ばれる、感慨深い一時となりました。



「SUMMER」を弾く安藤明日香



「タイムトゥ・セイ・グッバイ」を弾く坂本維子

昨年末の忘年会に引き続いてピアノを演奏する機会が訪れようとは思ってもいませんでした。  
4歳からピアノを習った私にとって日常の生活に常に音楽がありました。人前で弾くのはおよそ20年来的なこととはいえ大人になってからの演奏には新鮮な緊張感があります。また、以前から弦楽器にも興味があつて、昨年思い切つてバイオリンのレッスンを始めました。まだまだ未熟ですが、幼少の頃のピアノレッスンを思い出しながら弓を握っています。  
季節感やその時々自分の気分次第で心に響く音色は違ってきます。目覚めの時、睡眠前のひと時、音楽はそれぞれに感慨深いものがあります。いろいろなジャンルがあつて、どれも好きですが、最近ジャズピアノにもひかれていて、もっともっと練習しなくちゃー、と思っています。  
(坂本維子)





【石狩・篠路】臨床工学技士



【篠路】臨床工学技士



VIP 席



会長、目尻が下がってますよ!



【石狩・篠路】事務・栄養士



外来・病棟看護師

# スタッフアラカルト



病棟看護師・助手



【篠路】事務・透析室看護師



【石狩・篠路】ドライバー



【石狩】外来・臨床工学技士・幹事



工藤春代理事



工藤由佳新理事

工藤万梨乃新理事



【石狩】外来・透析看護師



調剤薬局 石川先生・労務士 小関さん他

理事長  
篠路はまなすクリニック院長

## 工藤 岳秋

篠路はまなすクリニックに外来・入院診療部門が新設され、はまなす医院は一般外来と血液透析を担当する無床診療所になりました。工藤立史副理事長が加わり、はまなすグループは新たな展開を目指します（昨年の実績ははまなす医院のもです）。

### 1. 消化器内科・外科

内視鏡・超音波などの検査を積極的に行います。大腸CT検査（バーチャル内視鏡）による検査の苦痛軽減を図ります。手術は主に私が担当します。北海道大学第一外科での修練のうち、3年半は関連病院で集中的に腹腔鏡手術に取り組みました。篠路はまなすクリニックでも胆嚢・胃・大腸などの手術で積極的に腹腔鏡を適用します。麻酔科医（工藤謙三会長）が常勤しており曜日に関わらず全身麻酔が実施可能です。昨年の消化器手術は22件（腹腔鏡5件）でした。

### 2. 血液透析および腎疾患

副理事長は腎臓内科専門医であり各種腎疾患・腹膜透析にも診療範囲を広げていきます。血液透析の増床も検討中です。バスキュラーアクセスの検査は両医院で、治療は篠路はまなすクリニックで行います。昨年の経皮的血管拡張術（PTA）・外科的再建は合計143件でした。さらなる件数増を目指します。



### 3. 「かかりつけ医」

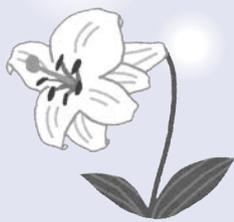
花畔、篠路それぞれの地域で、内科・外科を問わず気軽に健康相談に立ち寄れるような外来を展開していきます。

### 4. 診診連携

性格の違う近隣の診療所が協力することで患者さんの利便性が病院並みに向上します。有床（19床）である篠路はまなすクリニックは他院からの入院のご依頼に対応します。急性期病床として有効にご活用いただきたいと思えます。

\*

理事長（消化器外科・一般外科）、副理事長（総合診療科・一般内科）、会長（外科・内科・麻酔科）がそれぞれ専門性を発揮しながら力を合わせ、地域医療に貢献していきます。



副理事長  
はまなす医院院長

## 工藤 立史

4月からはまなす医院の院長に就任いたしました。入院病床を篠路に移したため、石狩は一般外来および、通院透析の施設となっております。透析ベッドは23床で40数名の患者さんが通院されています。はまなす医院は過去21年間に亘る診療実績があり、これからも地域に欠かせない医療機関であると考えております。実際、私が4月に赴任してからも5名ほど新たな透析患者さんの紹介を受けており、今なお患者さんが増えつつあります。

一方で、週に2回から3回ほどは新築された篠路はまなすクリニックへ出向き、透析医療および内科系の外来、入院患者さんの診療にあたっております。北大第二内科に入院して以来大病院を含めて札幌市内の基幹病院で腎疾患を専門に診療してまいりました。石狩、篠路の両施設において、これまで経験した腎臓内科の診療を存分に展開したいと考えております。透析患者さんを含む慢性腎臓病というのは重症度の軽い方から順にステージ1から5までありますが、ステージ3以上、つまり中等度以上の重症な患者さんは全国で2400万人、北海道だけでも100万人はいると推定されています。それに比べて北海道の医師数は平成24年の統計では1万2千人あまりとなっております。単純計算で、一人の



医師が80人以上の慢性腎臓病患者さんを診療しなくてはならないことになりました。患者さんが多い割に、腎臓を診療する施設というのはまだまだ足りていないのが現状です。

私は透析になる前の段階の保存期腎不全患者さんや、尿蛋白や尿潜血が出る慢性糸球体腎炎など、これまではまなす医院ではあまり行われてこなかった診療についても石狩と篠路の地で行いたいと考えております。また当院でかかりつけの患者さんが腎不全を悪化させた際の透析導入も積極的に行っていきます。篠路はまなすクリニックは、これまで他院で透析導入された患者さんについて、外来通院の紹介を受ける施設でしたが、今回新たに入院病床や手術室ができたことで透析以前の患者さんから透析導入した後のケアまでをすべて自前でできる施設に生まれ変わりました。これからは消化器外科とともに、腎・透析の診療について一層充実させ、地域医療に貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。

# 庶務係の仕事

— 空調管理係 —

4月1日より診療がオープンした篠路はまなすクリニックの増築棟は新たに外来診療、放射線検査室、手術室、入院病棟などが加わることになり、それに伴い施設の設備なども省エネ効率の高い最新式のものになっています。

施設に不慣れなため戸惑うことも多いのですが、患者様からのご意見ご要望にはできる限り真摯に対応していきたいと考えております。遠慮せずお声掛け下さいますようお願いいたします。

今回設備係の私からお伝えさせていただきたいことは、皆さまからお声をいただくことの多かった、お部屋の温度が「暑い」ですとか「寒い」ということに直接関係する院内の空調設備についてです。

まず、空調設備とは…

**換気設備**：屋外の新鮮な空気と室内の空気を入れ替えて常に部屋の空気を綺麗に保つ。

**エアコン**：室内の空気の温度を冷房、暖房、除湿、送風、で調整する。

以上の二つで構成されていて、換気で約20℃前後の新鮮な空気を院内に供給し、エアコンで室内温度の最終調整をしています。

当院の換気設備はエアダクト方式を採用しており、屋上(4階)にある外気調整機により、温度、湿度、風量などを集中的にコントロールして新鮮な空気を室内に供給しております。



当院の外気調整機

換気の調整は四季(夏・冬・中間期)を通して行うもので、夏は暑い外気を適度に冷やして院内に供給し、冬は冷たい外気を暖め、適度

に湿度を調整して院内に供給しています。

春・秋の季節は中間期となり、外気温を温度調節しなくてもいい条件の場合はそのまま院内に供給しています。

また、日中の外気温や方位による日射条件の変動、待合室や廊下などの混雑状況によっても変動することなども考慮して調整しています。



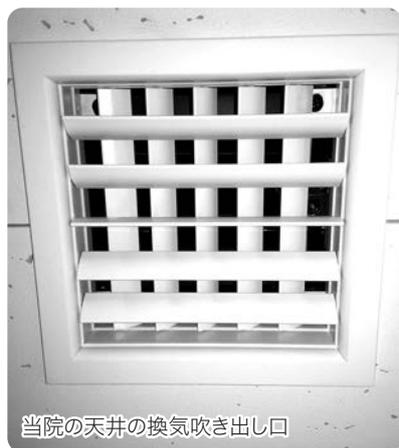
当院の待合室の換気吹き出し口

病室の皆さまからのご意見の中に「換気口から吹き付ける風が冷たくて寒いのでどうかしてほしい」とのお声をいただくことがありました。

簡単に換気の風を止めてしまえばいいのではないかと思われるかもしれませんが、もし換気を止めてしまうと当院のような鉄筋コンクリート

の建物は気密性が高いため室内の二酸化炭素濃度が高くなり、眠気、頭痛、めまい、吐き気などといった症状を引き起こす原因となるために簡単に止めてしまうことができません。

このケースの対応としては通風の向きを変えて換気風が直接身体に当たらないように調節させていただき、換気空気温度を少し暖めに設定するという対応をさせていただきますました。



当院の天井の換気吹き出し口

他にも単純に「寒い」「暑い」というお声もいただくことがあります。「寒さ」「暑さ」の感じ方には性別や個人差およびその時の体調にも左右されることから、同室の他の患者様との兼ね合いなども考慮すると調整には困難が伴いますが、今後とも患者様が少しでも快適に過ごせるよう環境作りに努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。(高木一哉)

# 透析食・人気メニュー紹介

## メニュー

- 三色丼 (卵・鶏そぼろ・ほうれん草)
- 麻婆春雨
- フルーツ (杏缶)

栄養価	
エネルギー	656kcal
たんぱく質	22.9g
脂質	15.3g
炭水化物	102.2g
カリウム	588mg
リン	300mg
食塩	2.1g



三色丼は彩り豊かでご飯を目で楽しめる一品です。患者様からのリクエストもあり、人気メニューの一つです。麻婆春雨の春雨は蛋白質量が少なく、少量でもエネルギーが摂れるので、透析の患者様に合った食材の一つです。また、片栗粉でとろみをつけることもエネルギーアップの効果があります。

(管理栄養士 中山絵里奈)

## ● 三色丼 (1人分)

### 材料

#### 【黄色】

卵 ..... 40g  
 砂糖 ..... 2g  
 塩 ..... 0.05g  
 酒 ..... 2g

#### 【茶色】

鶏挽肉 ..... 30g  
 しょうゆ ..... 4g  
 酒 ..... 2g  
 みりん ..... 1g  
 砂糖 ..... 2g

#### 【緑色】

ほうれん草 ..... 40g  
 めんつゆ ..... 2g

### 作り方

- ①卵は溶きほぐして混ぜ合わせた調味料を加えフライパンに流し込み、よくかき混ぜる。火が通ったら火を止めて「ぼろぼろ」になるまで混ぜる。
- ②鶏挽肉は、鍋に入れ調味料を加えて味付けしよく混ぜてから強火にかけ汁気がなくなるまで煮る。
- ③ほうれん草は、塩ゆでし水を切って4cm程度の長さに刻んで調味料を加えてよく和える。
- ④ご飯に三色バランス良くのせて、お好みで紅しょうがをのせて出来上がり。



## ● 麻婆春雨

### 材料

春雨 ..... 12g  
 豚挽肉 ..... 20g  
 人参 ..... 8g  
 長ネギ ..... 15g  
 油 ..... 1g  
 豆板醤 ..... 1g

しょうが (おろし) ..... 0.5g  
 甜麺醤 ..... 3g  
 醤油 ..... 2g  
 みりん ..... 1g  
 砂糖 ..... 0.5g

片栗粉 ..... 2g  
 ごま油 ..... 0.5g

### 作り方

- ①人参は千切り、長ネギはみじん切りにしておく。春雨は湯がいて水切りしておく。
- ②油で人参と長ネギを炒め、豆板醤を加え辛さを調節する。
- ③豚挽肉を加えて調味料を入れて味付けし、春雨を加えて煮詰める。
- ④水溶性片栗粉を加えてとろみが少しいたらごま油で風味を付けて出来上がり。



## ● フルーツ

杏の缶詰を1人60g程度に分ける。

## 器量よし

— 医院の開業のために土地を探していた22年前のことである。旧知の建設会社の社長の奥さんが、地勢図を眼鏡越しにじっと見つめて息を吐き出すように言った。

「器量のいい土地だねえ」

夫を支えて長年建築業に携わってきただけに、彼女はなかなかの目利きである。その一言は私の背中を押した。

はまなす医院は平成6年3月15日にそんな「器量のいい土地」に生まれた。石狩が「市」になる以前のことである。現在の市庁舎はまだ存在せず、親船町に古びた平屋の町役場があった。はるばるの出向いて行って医院建築に伴う手続きを済ませたが、今では遠い昔の幻のような記憶である。周辺の地域は人家も少なくさびれて見えた。心細い思いの中にやがて医院の建築がはじまった。おりしも土地区画整理事業の最中で、道路の改良工事などが同時に行われていった。明治時代から連綿と続いてきたひなびた農地が近代的な宅地に変貌をとげようとしていたのである。

かくてオープンした私の医院は初期の困難を乗り越えて発展し、12年の星霜を経て、勇躍、札幌市篠路に透析専門のサテライト・篠路はまなすクリニックが生まれることになる。

しかしながら土地探しには苦労があった。医院開業の成功条件は「1に場所、2にも場所、3、4が無くて5にも場所」というくらい立地条件が大切とされている。20年以上も前から篠路地区は透析医療について空白地帯と言われてきた。なじみの不動産屋に相談するとグリーンピア篠路という名称の札幌市が売り出している分譲地があるという。その中の一画が、ワケありげに、ぽっかりと売れ残っていた。2千7百坪もの広さがある。広すぎて少なからず腰が引けたが勇気を出して訪ねてみることにした。

JR篠路駅から東に向かって徒歩で10分。周辺に住宅が立ち並び、東隣にツルハが開店予定で、道路の斜め向かいにはビッグハウスが繁盛している。南側がJR篠路駅から続く車道に面し、通りを挟んだ向かい側にある広大な空き地は、いざ北区分区して独立する予定の「篠路区」の区役所が建つという。西隣は立派な前庭を構えた古い農家で、北側にある篠路小学校には「開校130年」という横断幕がかかっていた。かつて「はまなす医院」が発祥した石狩の地に比べてはるかにぎやかで、立地条件はこの上ない。

難点は東北の側に墓地が存在することだった。墓地に接するがゆえにマンション業者などの触手をまめがれ、周辺から取り残されて空き地のままになっていたのだ。器量

が良いのに買い手がつかない。問題のあるお隣さんにじゃまされて売れ残ってしまった娘さんのようなものであった。

その年私は還暦を迎えた。干支（エト）は戌（イヌ）である。石狩の地に開業したのが48歳の年男だったから馬齢を重ねて干支が一巡したことになる。

「今度も戌年。イヌも歩けば棒に当たる。2千7百坪はさすがに広いが、いづれ全てを利用することになるかもしれない。前進あるのみ。この地で再びやってみよう。」

齡60にしては大きな決断であった。

爾来9年。不安は杞憂に過ぎなかった。お墓の懸念をよそにサテライトクリニックは順調に発展を遂げてきた。そしてこのたびこの地に理事長・岳秋の手によって超モダンな医療建築が出来上がった。もはやサテライトではない。真新しい建物はスペースがゆつたりとして芸術的センスに満ちている。

しかしながら器量より愛嬌というところもある。見かけ倒しにならぬよう、さらなる医療サービスの向上に努めなければならぬ。

